

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



今年は一九九八年、後二年で二十一世紀を迎える。昔からの正月行事も年を重ねると共に忘れ去られてゆき何だか一抹の淋しさを感じる今日この頃である。

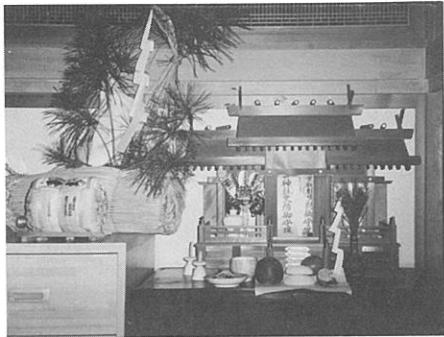
今回はそうした中で正月の行事、正月の遊び、たこ揚げ・羽根つき・かるた遊び・双六・花札・メンコ・コマなどの特集をした。後世に伝承されれば幸いである。

天の岩戸の神話に手力男の命が天照大神を岩屋から連れ出した時に中にもどらぬよう縄を張つたのが、シメナワ、の起源だと云ふ。お年取りには、カド松・しめ飾りをして神棚や佛壇にお供へ物をして今年一年間の感謝の報告をする。古来多くの日本人は神佛信仰に違和感はなく、明けて元日には初詣で社・寺に新年の安泰をお祈りする。

正月の行事と遊び

正月の行事

近頃次第に家庭における民俗行事が簡略化されていく中で、今も昔からの仕来りを大切に受けついでいる小坂区小林家の正月行事を紹介します。



▲火防の神へ



◀床の間の神様へ



▲玄関の門松へも



▶仏壇手前の御飯は
仮様の御靈への供物

▶供物はお供え前に
切り火（火打石）で
清めてから



大晦日 家中の神棚全部に御飯、特に仏様には御靈の御飯を供えてお参りする。また、玄関や外の門松にもあげ、一年中の感謝をする。

元日 朝茶とお茶受けに焼いた餅を全神仏にあげてお参りした後、この餅を下げて家族全員で朝茶をいただく。この餅は暮に神仏用に小さめに作つておいた切餅を使う。

二日 風の立たないうち（早朝）に仏様の御靈御飯を下げ、仕事始めにすげ縄をなつて神棚にあげる。

三日・六日 三日年・六日年として簡単な年取りをしたが今はやらない。

七日 七草粥（かゆ）を作つて神仏に供え、門松にもあげてから外の松飾りを下げる。

十一日 初めて蔵を開ける。
一升桶（まい）に米八合ほど入れ、上に餅を載せ、タツクリ二つを添えて供える。



▲ 蔵開き



► 床の間にお頭付を添えて



▲ 物置の入口へ



► 庭の水神様へ



► 恵比寿棚へ

二月節分　大豆の枝にゴマメを刺したものをもつて、「しじゅうにくさの虫みなじや・じや・じや」と唱えながら畠を廻る。十二書を書いて門口に貼る。豆まきをし、これで正月行事はすべて終る。

二月節分　二十日正月　神仏の供え物を全部下げ、雑煮を作つてそれぞれにあげる。

十七日　山の神、弓を一張作り、紙に包んだ米にタツクリを添えて弓につけ、木の枝にかけて祈る。

十五日　十五日粥　「けえかき棒」を使って粥を作り神棚に供える。このけえかき棒は後に苗間の掛け口に挿して苗の良好な生育を祈る。

十四日　若年、餅をついてお飾りは新しく取替え、物作りをして神仏に供える。またお神酒すずを洗い、お酒を替えて柳の小枝を挿す。くるみの枝で「けえ（粥）かき棒」二本作つておく。



写真で見る正月の遊び



正月の遊びにはいろいろあるが、ここに昔ながらの遊びを振り返ってみたい。女の子の遊びに、お手玉・まりつき・羽根つき・すごろく・かるた取りなどがある。お手玉

◆ トランプ遊び



男の子の遊びは、めんこ。たこあげ・コマ回し・竹馬のりなどがある。

◆ たこあげ

又、夜ごたつで家族そろって、かるたとり、すごろく、花札などを夜おそらくまでやるのも、正月ならではの楽しみである。



◆ 花札遊び



◆ すごろくあそび

「だんま」は、布袋の中に小豆を入れて作る。小豆は音も良く、重さも程良い重さで、上手な人は五個六個で遊んでいた。正月の寒い中での羽根つきは、羽根をつく音が澄んでおり、正月を感じさせてくれた。

◆ だんま

る。めんこは大めんや中めんがあり、大将や侍の絵を張った方が表で、打ちつけて相手のめんこの表がでると取る遊びである。たこあげは、昔は家で竹を細く削り組みあげ、紙を張りあげたが、今は市販されているビニールだこが多い。